

産業建設委員会記録

令和 7 年 7 月 31 日 (木)

10 時 00 分～11 時 17 分

全 員 協 議 会 室

【委 員】川上委員長、田畑副委員長、

村木委員、夫谷委員、~~小川委員、佐々本委員、牛尾委員~~

【議長・委員外議員】

【事務局】小寺書記

議題

- 1 議会による事務事業評価の進捗状況について（委員間で協議）
- 2 はまだ市民一日議会での発言内容の今後の取扱いについて（委員間で協議）
- 3 その他

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[10 時 00 分 開議]

○川上委員長

出席委員は5名で定足数に達しているため、産業建設委員会を開会する。本日、大谷委員と佐々木委員から欠席届が出ている。レジュメに沿って進める。

1 議会による事務事業評価の進捗状況について（委員間で協議）

○川上委員長

3事業について担当の委員から説明をお願いします。

まず、ふるさと体験村維持管理事業について。

○村木委員

進捗状況としては、まず6月10日に皆と弥栄支所にヒアリングに行った。その後、7月18日の午後に佐々木委員と私で、実際に体験村を運営している佐藤氏と太田氏にヒアリングをした。今後のことや過去のことも含めて話を伺い、まとめはしていないが状況としてはまずヒアリングが終わった段階である。

もう1件ヒアリングを考えており、現在、弥栄で実施している「いわみ留学」に関わっている方にも、弥栄全体のことやその中におけるふるさと体験村の位置付けなどについても話が聞けるということもあり、現在調整中であるが、もう一度関係者のヒアリングを行い、評価シートをまとめる原案を作成したいと考えている。佐々木委員からも了解を得ている。

○川上委員長

次のヒアリングはいつごろか。

○村木委員

8月の上旬を予定しており、この後、体験村と日程調整をする予定である。

○川上委員長

次の当委員会が8月6日である。なるべく早めに原案を提出して、事務事業評価としてのまとめをある程度行いたい。もし無理であれば、それまでにヒアリングを終えて8月6日の委員会で説明してもらってまとめていきたいと考える。

○村木委員

次の委員会で評価シートの原案を提出するという事で承知した。

○川上委員長

そのようにお願いします。

続いて、担い手等育成支援事業について。

○小川委員

農林業支援センターの所長とは一緒に意見交換をしたかったが、直前で日程が変わるなどしたため2回流れている。本日この委員会が終わった後に意見交換をすることになっている。

評価シートのサンプルをいただいたのでこれに基づいて進める。7月3日の委員会の中でも、特に事業の目的と実際の事業がどうなのかという点について議論になったので、それをまとめれば一定程度委員会としての評価は出るのではないかと考えている。その点を踏まえてシートに書き込んでいくことができると考えており、8月6日の委員会までにはその原案は作成できるのではないかと考える。

○川上委員長

6日の委員会であるので、4日の夕方ぐらいまでに出してもらおうと事務局としても助かると思う。事務局、よろしいか。

○小寺書記

本日皆に提案しようと思っていたが、一度事務事業評価シートを書いてみてはいかがかかと考えているところである。8月6日の委員会で確認しながら協議ができるように、8月4日月曜日の正午ぐらいまでに提出いただけるとうれしい。

○川上委員長

村木委員も小川委員もよろしく願います。

最後に、浜田市商業活性化支援事業について。

○牛尾委員

大谷委員と最後の詰めはしていないが、途中経過を報告する。

商業活性化支援事業の中で、法人格を持っている商店街は、殿町、銀天街、紺屋町、朝日町の4か所である。駅北や新町は法人格を持っていない。商店街の主要なイベントである土曜夜市は市民に喜ばれているが、継続できているのは新町だけである。銀天街も先日の「エキサイティング大蛇」で3千人以上集まったが、ほかの商店街はやりたいという要望はあるものの、組合員の減少、イベントを支える人の減少で実施できていないのが現状である。

補助金の現状として、駅北はJ T跡地を市が取得して分譲した形で、地元スーパーや医療センター、周辺企業が一緒になって駅北フェスティバルを実施している。医療センターも関わっており、市民の健康チェックなども行うイベントで、活気があり市民の参加も多い。補助金の枠も上限まで使っている。今年は20周年記念事業として、10月18日のイベントに山崎ていじ氏を呼ぼうと計画していたが、予算の調整がうまくできず何とかならないかという相談があった。医療センターも含めた全体の健康イベントであるので、補助金は継続してほしいとのことであった。

次に、殿町商店街も組合員の減少は同様である。土曜夜市もできていない。商店街としてイベントはしたいが人手不足で難しく、補助金も条件に合わず使っていない。今後はまちづくりセンターと一緒に、防災などのテーマで市民が参加できるようなイベントを企画していきたいとのことで、そういった形でも使える補助金があれば良いという考えであった。

新町商店街は法人格を解散したが、新町商店会という名で年間2回、土曜日にセブンイレブン前の広場で夜市をやっており、にぎわいを出している。補助金も維持してほしいとのことであったが、現状維持で精一杯とのことで、新しい要望の考えはない

ようである。

続いて銀天街は先週土曜日の「エキサイティング大蛇」は大変な盛況であった。西日本でも有名なイベントの一つになっており、引き続き補助金をお願いしたいとのことである。また、三桜酒造跡地のにぎわい創出の社会実験の実行委員会に参加しており、9月に屋台などを出すイベントに協力するとのことである。

紺屋町はここ4年、組合員の減少と若手がいなくにより土曜夜市ができていない。町内会やまちづくり、防災会議といった組織が集まってイベントの協力をしている。水産高校と共催していたイベント実施は未定とのことである。補助金は使えていない状況である。先日、街路灯の修理をボランティアでしていただいたことが新聞記事にもなった。

朝日町は秋祭りの際にイベントを地球堂の横の広場で行っており、そこで補助金を使っているとのことであった。

特に法人格を持っている商店街は維持費も必要なため、解散も視野に入れているようであった。また、町内会や防災会議、まちづくりセンターなどと共催でイベントを仕掛けるような、そういった地域と一体となったイベントに使えるような補助金制度にしてほしいという要望があった。先日、浜田商工会議所から各単体を支援できる状況ではないという話があったが、地域には人が住んでおり、町内会や防災会議など様々な団体がある。そういった団体が複合的に市民参加のイベントを実施できるような、呼び水となる支援金を用意していただきたいというのが、複数の商店街からの要望であった。大谷委員と調整してまとめたい。

○川上委員長

いずれにしても、イベントの現状を再度明らかにして、参加されている組織数や参加人数も入れるとより見やすくなるだろう。同時に、最後に言われた希望についても、活用できる補助金制度について書いてもらおうと良いと考えるがどうか。

○田畑副委員長

委員長が言われたように、それぞれの商店街でイベントを実施した場合の参加人数、時期、補助金などを一覧にしていただけるともっと見やすいと思う。

○川上委員長

補助金額に対してイベントをこれだけ行い、参加人数がこれだけだったという実績と発展的なものであったと書いてあるとより一層分かりやすいだろう。

○牛尾委員

補助金の要綱があるので、30万円しか使っていないところは組合員が30人未満、銀天街や駅北のように50万円使っているところは30人以上である。新町は8月2日に実施するので、どのくらいの動員があるか見てみたい。紺屋町は浜っ子春まつりに合わせてにぎわいを出す努力をされているので、物販には結び付いていない。ボランティアでやっており補助金は使っていない。動員数を出してみる。

○川上委員長

最後に言われた部分については改善提案になってくると思う。

それでは、3件とも8月4日の昼ごろまでに、ある程度書いて出してほしい。各委員は内容を読み込んで6日に再度協議をしたい。

○小寺書記

7人の委員が3事業をそれぞれ書くということで良いのか。

○川上委員長

2人でペアでやっているのだから2人で書いて提出してもらい、6日の委員会でそれをまとめたいと考える。

○牛尾委員

それで良いと思う。事務局が言われたのは、全委員がそれぞれの見解を書くということだったと思うが、深掘りの調査は全員が同じレベルで共有することは不可能である。分担制なので、担当したところはある程度は任せてもらい、まとめる際に問題があれば皆の意見を聞いて手を加えるくらいで良いのではないかな。

○川上委員長

委員長としてはそういう思いである。その形でよろしいか。

○村木委員

4日の午前中までに出す資料は担当の部分を連名で出すということで理解した。

○小寺書記

やり方は承知した。ただ、最終的には皆がシートを書くということでよろしくお願いする。

○村木委員

事務局に確認するが、以前もらったスケジュールで進んでおり、実際にシートに記入するのは9月中旬とあった。今回提出するのはたたき台という認識で良いか。

○小寺書記

村木委員のイメージで合っている。あくまで今回書いていただくのは下書き的な意味合いである。

○川上委員長

委員会で事務事業評価をしたものを基に9月に再度ということになる。

この事務事業評価について、執行部の事務事業評価はできたかできなかったという内容になっている。できるだけ当委員会では目的に合った事業がなされているかどうか評価の一つに入れていただきたい。

○牛尾委員

執行部の出した事務事業評価を見ながら当委員会の事務事業評価を行い、その二つを材料にしながら予算決算委員会に臨むというのが流れだと思う。まとめをするときにそれぞれの担当の部分で問題点があれば共有しておかないといけない。

○川上委員長

6日と、もしかしたら次の定例会議までにもう少し深掘りする可能性があるのですが、ご理解いただきたい。

○小寺書記

今回シートを書いていただくが、これはE x c e l データで送って良いか。作業しやすい方法で送る。タブレット入力でも、事務局のパソコンで入力してもらっても良い。

○川上委員長

E x c e l で対応できる方にはE x c e l で、田畑副委員長は手書きとのことなので、それでよろしく願います。

2 はまだ市民一日議会での発言内容の今後の取扱いについて（委員間で協議）

○川上委員長

当委員会で対応を協議することになっているのは、松川氏からの「参加型のイベントがしたい」というテーマと、井上氏からの「浜田市のサードプレイス」に関するテーマの2件である。井上氏の件については、ベンチャー企業や新規創業に関する内容を当委員会で対応することを協議する必要があるかと思っている。委員からこの2件について当委員会としてどのように対応できるか意見を伺いたい。

○牛尾委員

松川氏と話をしたが、自分が仕掛けてやるというよりはこういうことがあれば参加したいというのが主旨のようである。大谷委員の教え子のようで、いろいろと学校で話をされており、金城に新しくできる温泉施設で何かやりたいと話しているようである。三桜酒造跡地でイベントを仕掛けるのも面白いかと思ったが、本人の意向は少し違ったようで、金城エリアでこういうことをしたいということで、大谷委員と話をしておられるようである。これはそちらに任せれば良いのではないかと感じた。

○川上委員長

私は市民提案型の事業を予算の中に組み込んでもらえるようにすると良いのではないかなと思う。提案型の事業を募集する事業を組んでいただくと十分できるのではないかなと考える。それを委員会から出す必要があるかという別の話で、良いことだからやっていただきたいと言って終わりにするのか、そのことを執行部に伝えるか。

○田畑副委員長

漠然とイベントが少ない、参加がなかなかできないということであつたのではないかなと感じた。そういった中で、それぞれのイベントにどのように対応していくかということになると、それは産業建設委員会だけの問題ではないだろう。教育委員会の問題もあるかもしれないし、地域政策部などの問題もあるかなと思うので、産業建設委員会としてはできるだけ地域の方に声を掛けるといようなことしか言えないのではないかな。

○川上委員長

地域の方々にイベントに参加できるように門戸を開けということか。

○田畑副委員長

当委員会として特定の事業についてどうこう言うのは難しいと感じている。できるだけ声を掛けるようにしないと、地域の人がイベントがあることを知らなかったと

いう情報のずれがあってはいけないと思う。

○川上委員長

牛尾委員、美又温泉の新しい施設の一部は商店など事業に使っても良いという形になっているので、それへの参加を促しても良いかと考えるがどうか。

○牛尾委員

誰が出店しても良いというエリアは以前からあるが、ここ数年、そこへ出店したいという企業はゼロである。ハードルが高いのが現実である。相当のエネルギーと金が必要なのだろう。イベントをやろうにも、それを支える中核的な人材が大きく不足しており、熱意だけでできる時期はとくに過ぎている。例えば、大学生のパワーを借りて、一定の予算を付けて実施するなどの工夫が必要である。自分が言い出して自分が参加して背負えないものを人にやれと言うのはつらい。それがこの5年、10年でパワーダウンしてきた現状だと思う。

○川上委員長

松川氏の参加型イベントも井上氏のサードプレイスも、それに対して伴走する支援がないとなかなか実現しづらいということであろう。お手伝いや助成金など。

○牛尾委員

今でも大学との共同研究や、水産高校と商店街が組んで商品化するなど、様々な連携は行われている。そういうイメージと少し違うことを考えておられるようだが、ほかの大学生も同じ意見かという、そうでもない。なかなかやれば良いというだけでは終われない気がしている。

○川上委員長

松川氏の参加型イベントは、参加できるイベントが地域としてオープンになれば良いということ。井上氏のサードプレイスについては、責任の所在を明らかにしておかないといけない。そこが明らかであれば、当委員会でも対応を考えても良い気はする。

○牛尾委員

井上氏の提案について、大学内に学生が使える補助金制度がある。身近にあるものを活用してもらい、もっと大きな金額が必要ならクラウドファンディングなどで外部に求めるという方法もある。

○村木委員

松川氏のキーワードは「本人参加型のイベント」だったと思う。特に商店街のスタンプラリーについて、熊本で実施されているデジタルスタンプラリーの事例を紹介された。商店街だけではなく多くの部署が関わって、まちを歩くきっかけになり、商店街の発展や、まちやお店を知ることにつながるといった。デジタル推進室もできているので、歴史の拠点施設めぐりやお店めぐりなどのデジタルスタンプラリーを企画してみてはどうかと思った。

○小川委員

松川氏の発言は見て楽しむイベントがほとんどだという現状認識から、スタンプ

ラリーや宝探しといった自分が体を動かして楽しめるようなイベントをもっと浜田で開催してほしいという要望だと感じた。しかし実際には、主催者側の事情を考えると難しい面もあるが、若い人たちにそういう思いがあることを主催者へ伝えるべきではないかと思った。

井上氏についても使える補助金制度などの情報を分かりやすく提供することが必要だと思う。クラウドファンディングもあるが、現行の支援制度の中でも活用できるものがあるはずなので、その情報提供が課題だと感じた。

○村木委員

令和6年10月に当委員会で視察した高岡市の「高岡まちなかスタートアップ支援施設TASU」、まさにこのことだろうと直感した。当委員会としても、以前からまちなか交流プラザの活用を提言してきた。高岡市の事例では、コーディネーターの常駐が魅力であり、高校生など多くの人が入り出できる環境があった。市としても高岡市の施設を視察するなどして、参考にできるのではないかと思った。

○川上委員長

取りまとめて、委員会としての対応を決めなければならない。

ここで暫時休憩する。

[10 時 44 分 休憩]

[11 時 14 分 再開]

○川上委員長

委員会を再開する。

これまでの意見も含め、はまだ市民一日議会での発言内容の今後の取扱いについてまとめた。

まず、松川氏の件に関しては、市が実施するイベントにオープン参加が可能な企画を組み込んでいただきたいということを委員会として申し入れたいと思うが、よろしいか。

(「はい」という声あり)

次に、井上氏に関して、井上氏がどのように思われているか再度お聞きしたい。できれば同様の意見をお持ちの方も集まっていただき、一緒に意見を伺いたい。総務文教委員会も関係するので、そちらとも一緒になるかと思うが、その際に当委員会の求めていることが一緒にできれば良いと考える。そのような形でまとめ、当委員会の案としたいがよろしいか。

(「はい」という声あり)

次回8月6日の産業建設委員会にて、発言者への回答をまとめたいと思うので、よろしく願います。

3 その他

○川上委員長

委員から何かあるか。

(「なし」という声あり)

事務局から何かあるか。

○小寺書記

次回8月6日の委員会で常任委員会が所管する事項の見直しについて、委員間で協議を行うよう議会運営委員会から話が来ている。資料も議会運営委員会で用意があるとのことなので、それを基に意見を伺えればと思う。

○川上委員長

今回はこの所管事項についての意見交換を行うのでよろしくお願いします。

それでは、以上で産業建設委員会を終了する。

[11 時 17 分 閉議]

浜田市議会委員会条例第 65 条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

産業建設委員会委員長 川 上 幾 雄